

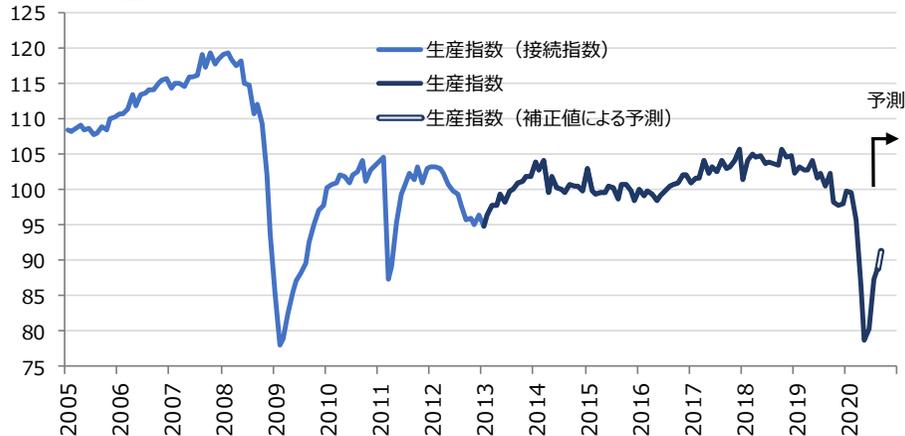
日本

# 鉱工業生産指数（2020年8月） 持ち直し傾向は継続も、依然として低水準で推移

政策・経済研究センター  
田中康就  
03-6858-2717

## 1 鉱工業指数（生産）

（季節調整値、2015年=100）



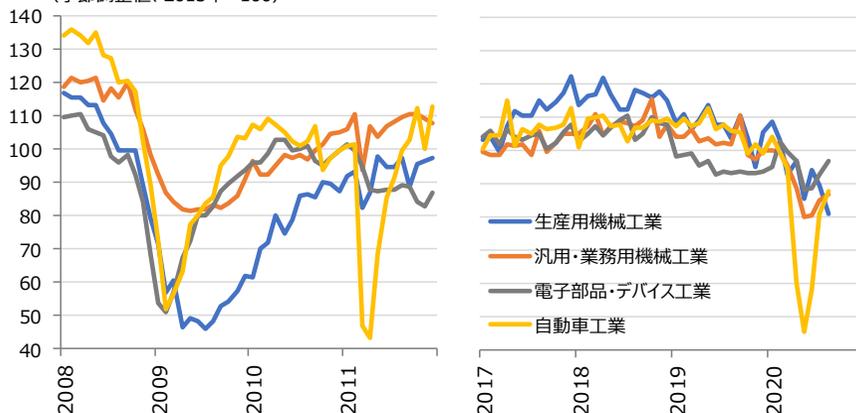
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

## 2 業種別の生産指数

世界金融危機時

コロナ危機時

（季節調整値、2015年=100）



注：2008～2009年について、①汎用・業務用機械工業は三菱総合研究所による試算値、②自動車工業は乗用車で代用。  
出所：経済産業省「鉱工業指数」

## 評価ポイント

### 今回の結果

- 20年8月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+1.7%と、3ヶ月連続で上昇（図表1）。ただし、高い伸びとなった前月から上昇率は低下した。
- 業種別にみると、15業種のうち10業種が増加した。
- メーカー各社の生産調整による減産幅が縮小している自動車工業（季調済前月比+8.9%）は、2桁の伸びとなった6月や7月に比べると上昇率は低下したものの、8月も高めの伸びとなり、生産全体を1.4%ポイント押し上げた（図表2）。
- 電子部品・デバイス工業（同+4.6%）は、2カ月連続で高めの伸びとなった。中国向け輸出の底堅さを背景に、世界金融危機時と比べて20年前半の落ち込み幅が小さかったこともあり、19年並みの水準まで回復した。
- 生産用機械工業（同▲9.8%）は2カ月連続で低下。世界金融危機時のような急激な低下は回避しているものの、企業の設備投資姿勢が慎重化していることから、低下傾向が続いた。汎用・業務用機械工業（同+2.1%）も持ち直しペースは鈍い。
- 製造工業生産予測調査によると、9月の生産は、企業の予測値と実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値が季調済前月比+2.8%程度となっている。

### 基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、国内外での経済活動再開を背景に輸出や国内需要が持ち直していることから、5月を底に上昇に転じている。もっとも、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の抑制は続いており、依然として19年平均の9割弱の水準にとどまっている。
- 先行きの生産は、持ち直し傾向の継続を見込むが、①企業の投資姿勢が慎重化が生産用機械工業を中心に抑制要因となるほか、②雇用・所得環境の悪化による家計の購買力低下を背景に、消費財生産の回復には時間がかかると予想されることから、持ち直しペースは鈍い可能性が高い。
- 生産の下振れリスク要因は、①新型コロナウイルスの感染拡大継続による世界経済の落ち込み長期化、②国内での流行拡大による外出・営業自粛要請の再強化が挙げられる。